

ライフケアサポート情報誌

こもれび

K O M O R E B I



特集

わたしたちのSDGs

～誰一人取り残さないために～



社会福祉法人 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252
□ <http://www.saiseikai-kg.jp>

2021

vol.36

SUMMER

SDGsと済生会

済生会鹿児島地域福祉センター所長 吉田 紀子

わが国では新型コロナウイルス感染症に関し、ワクチンも高齢者にひき続き他の年代への接種が進行しつつありますが、一方で変異株による感染者の全国拡大が懸念されており、油断ができない状況が続いています。

このような新興感染症パンデミックの背景には、近代文明がもたらした自然破壊や災害などにより生物多様性や生態系の調和が乱されたことも大きな要因の一つと考えられます。

かつては野生動物と人間は自然環境の中でうまく棲み分けており、人畜共通感染症なども少なかったのですが、近年は開発等により野生動物の生息域が狭められ、人間の生息域と重複する場合も多くなり、人間にとって未知の病原体が野生動物から感染するという事象が増えてきています。

このため、環境省や農水省、厚労省は人の健康、動物の健康、環境の保全分野が協力し分野横断的な課題解決のために活動していこうとする考え方「ワンヘルス」という理念のもとに持続可能な地球環境づくりの推進をめざしています。

これは今回のテーマであるSDGs推進の一環でもあります。

SDGsとはSustainable Development Goals「持続可能な開発目標」の略称で、エス・ディ・ジーズと発音します。2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

17の大きな目標(3・4ページ)のもとに、それらを達成するための具体的な169のターゲットを定め、各ターゲットの具体的な数値目標として244(重複を除くと232)の指標で構成されています。

244の数値目標はその進捗状況を毎年モニタリングされる事となっています。

SDGsは2001年に策定された国連ミレニアム開発目標(MDGs)の後継となる目標で、MDGsが開発途上国向けであったのに対し、SDGsは先進国、開発途上国すべての国で、全国民の参画のもとに活動するという普遍性・包摂性・参画型の目標であり、また17のゴール同士が相互に関連し合い、一つのゴールの達成の取り組みが他のゴールの達成にも繋がるという統合性を有し、さらにモニタリング指標を定め、定期的にフォローアップし、評価・公表するなど透明性が高いことがその特徴です。

SDGsは世界中の人々が誰ひとり取り残されることのない平等かつ安全に生きることのできる社会を創るための目標で、17種類それぞれが現在の世界が抱える包括的な課題です。

人が生きていくうえで欠かせない活動を17分野にわたり目標化したものといえますが、理解しやすく分類してみると、まず、「人間の活動(経済・社会・環境保護の活動)」という視点からは、地球環境(目標6・13・14・15)、社会(目標1・2・3・4・5・7・11・16)、経済(目標8・9・10・12)、パートナーシップ(目標17)に分類されます。

次に、「目標とその達成手段」という視点からは目標(1・2・3・4・5・6・7・10・11・12・13・14・15・16)と、目標を達成するための手段(8・9・17)とに分類されます。

さらに「5つのP」という視点からはPeople(人間)(1・2・3・4・5・6)、Prosperity(繁栄)(7・8・9・10・11)、Partnership(連携)(17)、Peace(平和)(16)、Planet(地球)(12・13・14・15)に分類され、

わが国ではこの分類に対応したSDGs実施指針が策定されています。

またSDGsにはいくつかのキーワードが存在します。

①誰ひとり取り残さない ②私たちの世界を変革する ③最後の人を最初に、最も厳しいところから手をつける というものです。(日能研:SDGs 2030年までのゴール)

現在、開発途上国のみならず先進国においても世界中のあらゆる場所・機関・人々がそれぞれ積極的に取り組みはじめ、コロナ禍で一次的に集団活動等が制限されてはいるものの、着実な世界的ムーブメントとなりつつあります。

わが国でもSDGsの必要性はいたるところにみられます。温暖化や自然開発による自然災害の多発、経済格差、健康格差、いじめや虐待などの人権障害、障がい者や生活困窮者の地域社会での孤立などです。

わが国では2016年より政府において毎年度「SDGs推進本部」会合が開かれ政策推進されていますが、直近の「SDGsアクションプラン2021」では「Ⅰ.感染症対策と次なる危機への備え Ⅱ.よりよい復興に向けたビジネスとイノベーションを通じた成長戦略 Ⅲ.SDGsを原動力とした地方創生、環境に優しく強靱なまちづくり Ⅳ.一人ひとりの可能性の発揮と絆の強化を通じた行動の加速」を重点事項として掲げています。

最近では各種メディアでもSDGs関連番組が増え、官民連携による大規模SDGsシンポジウム「ジャパンSDGsアクションフェスティバル」の開催や、民間企業や地域の若者たちによる様々なアクションが広がっています。

2020年のわが国の達成状況はスコア79.17で世界第17位ですが、コロナ禍の影響もあり、個人と社会の持続可能性について、国民特に若年層の関心も高まっているため、SDGsの潮流は今後さらに大きくなっていくことと期待されます。古来日本国民のこころの奥にはSDGsに通じる精神が息づいていると思われれます。

NHK大河ドラマの主人公渋沢栄一は100年以上も前に万民の公平と幸福を願って「論語と算盤」を著していますが、SDGsは「論語と算盤」の現代版と評されるほどに、渋沢栄一の先見の明が伺われます。

済生会では、創設者明治天皇の創立時の精神と理念を踏まえ、社会福祉法人として、医療と福祉の手段を用いながら生活困窮者をふくめすべての人々が健康で幸福にらせる社会づくりをめざしたソーシャルインクルージョンを計画的に推進していますが、これはまさにSDGsを目指した活動です。SDGsへの取り組みを進めることは済生会にとってはまさに原点回帰ともいえることです。

今号では、SDGsについて総論的なご紹介と、地域福祉センターにおける目標7・8・12の取り組みをご紹介しますが、次号では済生会の核となる取り組みをご紹介します。

この機会に皆様方もあらためてSDGsについて考えていただき、皆様方とともに「誰ひとり取り残されることのない地域社会」づくりに貢献できますようお願いしているところです。

今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

特集

わたしたちのSDGs

～誰一人取り残さないために～



最近テレビ放映やコマーシャル等で SDGs「エスディー・ジーズ」という言葉を耳にする機会が増えてきています。皆様はお気づきでしょうか。国や地方自治体、企業や社会福祉法人等が積極的に目標を掲げそれぞれの指標に向けて取り組み始めています。SDGsは、「Sustainable Development Goals」の略称であり、日本語で“持続可能な開発目標”という意味になります。SDGsは、2016年から2030年の15年間で達成すべき“世界共通の目標”として、2015年9月に国連で開催された持続可能な開発サミットで採択されました。発展途上国・先進国と国の状況を問わず、地球上のほぼすべての国が採択した国際目標であるため、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

今回は、この SDGsについて少し難しですが一緒に認識を深め、私たちが出来ることについて考える機会となればと思います。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



世界各国が、SDGsの期限である15年間(2030年までに)で、全17項目の目標達成に向けて行動していくことで、それ以降も“持続可能な社会”を実現させ続けることを SDGsは目指しています。

SDGsが目指す持続可能な開発とは？

将来の世代がそのニーズを満たせる能力を損なうことなしに、現在のニーズを満たす開発。

つまり、現在の人々の生活によって、未来の地球環境や人が暮らす社会・経済を壊すような開発をしてはならないということです。持続可能な開発を実現するには、地球上に住む全ての人々が協力して取り組む必要があります。目標を達成するためにも、社会的包摂・経済成長・環境保護の3つの核となる要素は欠かせないと言われています。

SDGsの17の目標



1 貧困をなくそう
あらゆる場所あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



2 飢餓をゼロに
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する



3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



4 質の高い教育をみんなに
すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



5 ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワメントを行う



6 安全な水とトイレを世界中に
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

これらの目標を見ていると、貧困や飢餓、健康や教育、さらには安全な水など開発途上国に対する支援に思われ、日本には無関係に見えます。しかし実際には、日本の子どもの6人から7人に1人が貧困だと言われていたり、ジェンダー平等に関しても153カ国のうち121位と、とても低い数字になっており、これらの目標は先進国である日本国内でも当てはまることだと言えるそうです。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



8 働きがいも経済成長も
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



9 産業と技術革新の基礎をつくらう
強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



10 人や国の不平等をなくそう
国内及び各国家間の不平等を是正する



11 住み続けられるまちづくりを
包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する



12 つくる責任 つかう責任
持続可能な消費生産形態を確保する

これらの目標では、エネルギーの話、働きがいや経済成長の話、まちづくりの話まで出てきます。これらはまさに先進国である日本も密接に関係する目標のようです。



13 気候変動に具体的な対策を
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



14 海の豊かさを守ろう
持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



15 陸の豊かさを守ろう
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



16 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



17 パートナリシップで目標を達成しよう
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

この辺りまで来ると、気候変動の話、海の話や陸の話まで出てくるので、開発途上国や先進国だけの話ではなく、もっと包括的な話になってきます。

武岡台デイサービスのSDGs

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



すべての人々の、安価かつ信頼できる

持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

全世界の人々が電気を含めたエネルギーを使えるようにし、なおかつこれまでの石油や石炭といった環境に影響を及ぼすものではなく、クリーンなエネルギーにシフトしていこう。

目標7 3つのポイント

1. 誰もが電気を使える環境を整える。

世界には、2018年時点で約8億6,000万人の人々が電気を使わずに生活していると言われています。電気が普及していないと、

- ①教育を満足に受けられる環境が整わない。
 - ②農産物や漁業の収穫物を加工する施設も未成熟で、産業が発展しない。
- 貧困の解決に必要な行動への阻害要因ともいえるそうです。

2. 再生可能エネルギーを活用する。

これまで、石炭や石油などの化石燃料を利用してエネルギーを生み出してきましたが、これらは限りある資源でありこのまま使い続けると枯渇してしまいます。また、大量の温室効果ガス排出の原因ともなるので、それに代わる次世代のエネルギーとして再生可能エネルギーが期待されています。再生可能エネルギーとは、太陽光や地熱、風力など地球上に常にあるエネルギーを指します。

3. エネルギー利用において地球に負荷を与えない技術を向上させる。

再生可能エネルギーには、気候によってエネルギー供給が不安定になったり、発電に伴う巨大な設備が必要になるなどの課題も見えています。巨大な設備を設置するために、途上国の人々の居住場所が奪われたり、森林を大規模に開拓することで生態系への影響が見られるようでは、持続可能等とは言えません。その為、効率よく利用できるような技術向上が必要です。

武岡台デイサービスセンターの取り組み

武岡台デイサービスセンターでは、デマンド監視システム『ECOTii(NEC)』を導入しています。本システムは、需要電力量(デマンド)を常時監視し、契約電力料金や使用電力の削減を目的とした表示・分析を行い、省エネルギー化に貢献するシステムとなっています。

事業所内の事務所にパネルを設置し、デマンド値超過時に警報にて知らせが行われます。また、パネル上に超過電力の数値を目で確認することができます。年間を通じて、夏季の空調使用と昼食後の食洗器の使用等が重なる時間帯にデマンド値超過が生じる傾向にあります。その際には、空調の温度の再設定や常時使用の必要がない照明の節電

等を実施し、デマンド値超過しないように対処しています。本システムを取り入れることにより、デマンド値超過が起こりやすい時間帯の把握や日々の節電に対する意識を職員間で共有できるようになったと実感しています。



事務部門のSDGs

8 働きがいも
経済成長も



**包摂的かつ持続可能な経済成長及び
全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある
人間らしい雇用(ディーセント・ワークス)を促進する**

目標8 4つのポイント

1. 資源を効率良く使って、経済成長を図り、環境悪化を防ぐ
2. 誰もが人間らしい仕事をできるようにする
3. 強制労働や児童労働、人身売買を撲滅する
4. 企業のサプライチェーン^[注1]を通じた健全なシステムを確立する

[注1] 原材料の調達→製造→在庫管理、配送、販売、消費者に届くまでの一連の流れ。のこと

介護業界の現状

日本国内においては、年々労働者不足が深刻になっており、鹿児島県では介護需要の高まりから、団塊の世代が後期高齢者となる2025年末までに、2,200人の介護人材不足が見込まれています。

済生会鹿児島地域福祉センター(以下、福祉センター)でも、これからの時代を見据え、介護人材の確保に向けた取り組みが必要不可欠となっています。

済生会鹿児島地域福祉センターの取り組み

福祉センターでは、令和3年4月から、定年後継続雇用となる職員についても定年前の賃金水準を維持したまま働けるように就業制度を改定しました。企業を対象に行われた高齢者の雇用に関する調査(下図参照)では、定年前の賃金水準を100%とした場合、定年後の賃金水準が平均約79%に低下していますが、福祉センターでは定年後も変わらず賃金水準100%を達成しました。これによって、定年後の賃金水準低下を理由とした人材流出を減少させるとともに、働く職員は定年後も長く安心して働けるようになりました。

急速な少子高齢化の進展や労働人口が減少していくなかで、誰もが年齢や性別に関係なく、健康で長く働ける職場環境の実現に向けて取り組んでまいります。

60歳直前の賃金を100とした場合の61歳時点の賃金水準(※)の分布(単位:%)

60歳直前の賃金を100とした場合の61歳時点の賃金水準は平均で78.7となっている。

	n	30 未満	30~ 40未満	40~ 50未満	50~ 60未満	60~ 70未満	70~ 80未満	80~ 90未満	90~ 100未満	100	100 以上	無回答	平均値
合計	5,891	0.2	0.4	1.2	4.3	13.9	15.8	12.8	7.9	17.9	0.8	24.7	78.7
従業員数													
100人未満	2,771	0.3	0.3	0.5	3.0	12.1	14.7	12.2	7.3	20.8	0.8	28.0	80.5
100~300人未満	2,131	0.1	0.4	1.2	5.3	15.3	17.0	13.6	9.2	16.3	1.1	20.6	78.2
300~1000人未満	694	-	0.9	2.3	5.5	17.7	19.0	12.7	7.5	12.2	0.4	21.8	74.7
1000人以上	167	1.2	1.8	8.4	10.2	12.6	12.0	12.6	7.2	12.0	1.2	21.0	70.9

※フルタイムで継続して雇用されている者の61歳時点の賃金水準(平均的な水準の者)

資料出所:独立行政法人労働政策研究・研修機構「高齢者の雇用に関する調査(企業調査)」(2019年)【速報値】

※n=5,891社、(単数回答) ※従業員が無回答であった回答は記載から除外。

60歳以降も企業で働き続ける人の多くは60歳直前に比べて、賃金水準が低下傾向にあることが分かる。

特養栄養課のSDGs

12 つくる責任
つかう責任



持続可能な消費と生産のパターンを確保する。

これまでの大量生産大量消費から、少ない資源で生産性をあげ良いものを使うようにし、さらには廃棄自体も減らす社会構造を作っていく。

目標 12 4つのポイント

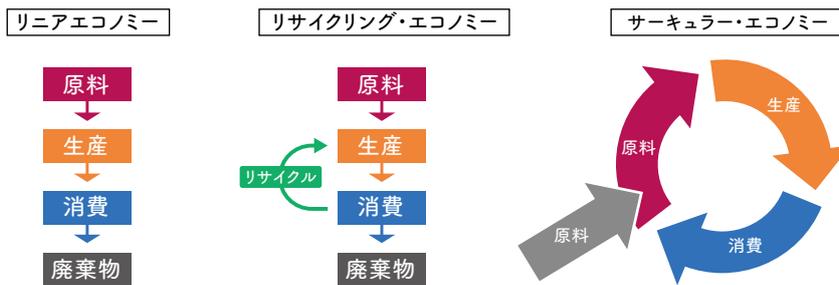
1. 食品ロス「本来食べられるのに捨ててしまうこと。」

農林水産省によると、日本では食品廃棄物など年間2,550万tが廃棄されていて、うち食品ロスは612万t(1人あたり年間48kg)にのぼります。さらには612万tのうち、約半分が家庭から出る食品ロスとなっており、目標達成には食品を扱う事業者の改革はもちろん、個人個人の取り組みも必要不可欠です。

2. フットプリント

フットプリントとは、原料から製造・消費、そして廃棄にいたるまでに、どれだけ環境に負担をかけたのかを計算して出された指標です。

3. リニアエコノミー・リサイクリングエコノミー・サーキュラーエコノミー



日本でも「3R(リデュース、リユース、リサイクル)」に取り組んでいますが、これでは廃棄物の発生が前提となり、地球が抱える課題を根本的に解決するわけではありません。

4. エジカル消費

人権や地球環境に配慮した倫理的な消費を行いましょう、といった意味合いを持ち、“消費者それぞれが、各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援したりしながら、消費活動を行うこと。

特別養護老人ホーム高喜苑の取り組み

しっかりと食べて頂けるよう献立を立て食事の提供を行っています。今回「食品ロス」について給食での取り組みについてご紹介します。

栄養をしっかりとってほしいとの思いで献立をたてますが、提供した食事が残されているとその分の栄養は摂れていない事になり、捨てられる食材(フードロス)にもつながります。

捨てられる食材(フードロス)を減らすために以下の取り組みを行っています。

1. 毎食の残食を確認し残食が多かった献立は内容を見直します。利用者の食事観察を行い何が残っているのか、それぞれの嗜好を把握します。又、なぜ食べられなかったのか介護士・看護師と協議の上献立や形態の改善に努め残食を減らすようにしています。
2. 毎食の摂取量を確認します。一人ひとりが残さずに食べることが出来る摂取量を把握し提供量を決めていきます。
3. 厨房内での食品ロスを少なくする為に食器に対しての材料の分量を把握します。
4. 調理前の下処理など、無駄にしているものが無いか厨房職員全員で確認します。
5. 毎週、棚卸を行い賞味期限の確認と在庫管理を行い無駄に食材を捨てる事がないようにしています。

これからも、「つくる責任、つかう責任」を意識して取り組んでいきたいと思ひます。

2021介護保険報酬改定のポイント

▶ 居宅介護支援事業所高喜苑

高齢者の介護を社会全体で支えあう仕組みとして、介護保険制度が2000年4月から始まりました。社会の実情に合ったものにしていこうという意図で3年ごとに見直されており、今年4月にも介護保険報酬改定が行われました。

今回の介護保険報酬改定は、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で『感染症や災害への対応力強化』を図るとともに、団塊の世代で全てが75歳以上となる2025年に向け、そして高齢者数がピークを迎えると推計されている2040年も見据えながら『地域包括ケアシステムの推進』、『自立支援・重度化防止の取組の推進』、『介護人材の確保・介護現場の革新』、『制度の安定性・持続可能性の確保』の5つの柱となっています。

その中でも『自立支援・重度化防止の取組の推進』は、介護サービスの質の評価と科学的介護の取組を推進し、介護サービスの質の向上を図る観点による新しい取組となっています。データベースである『LIFE(科学的介護情報システム)』の運用が始まり、データ(認知症・口腔・栄養の状態やケアの内容、リハビリの内容等)を提出すると、そのデータの分析結果がフィードバックされます。それらのエビデンス(根拠)をもとに更に質の高いサービス提供を図ることができます。どんなケアを行えば自立支援・重度化防止に効果があるのか、科学的に裏付けられた介護の実現を目指すことができます。介護サービス利用にあたっては、利用者の価値観・生活歴・ご家族の背景は様々で、ケアマネジメントする者によってもばらつきがみられている現状があります。ケアマネジメントの平準化・標準化のためにも、エビデンス(根拠)が重要となるため、このシステムの構築が期待される所です。

また、『地域包括ケアシステムの推進』においては、利用者が住み慣れた地域で、尊厳を保ちつつ必要なサービスが切れ目なく利用できるための取組です。これらは、以前より済生会がソーシャルインクルージョンの理念の下、取組んでいることでもあります。ここ最近、SDGsの取り組みが急速化してはいますが、済生会は、2018年10月から中期事業計画にリンクさせてSDGsに取り組んでいます。その中でも、「1.貧困をなくそう」「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」の3項目は、済生会の目標と活動方針そのものです。

介護報酬改定のポイントや、済生会の理念の下SDGsの目標に向け、目の前のひとつひとつのことができることから丁寧に向き合い、実践していきたいと思えます。

高齢者施設入所者等への新型コロナワクチン接種開始

▶ 特別養護老人ホーム 高喜苑

鹿児島市では、4月12日から特別養護老人ホーム等の入居者及び職員に対する新型コロナワクチンの優先接種が開始され、当苑では4月27日から1回目の接種を行いました。

新型コロナワクチン接種にあたっては、まずご家族に副反応について十分理解をしていただいたうえで、接種の意向確認を書面で行い、入所者50名のうち44名が接種を希望されました。

接種については、協力医療機関である済生会鹿児島病院の医師と看護師が来苑し、1回目を4月27日・28日・30日、2回目を5月19日～21日の3日間で入所者40名、職員30名、計70名に接種しました。

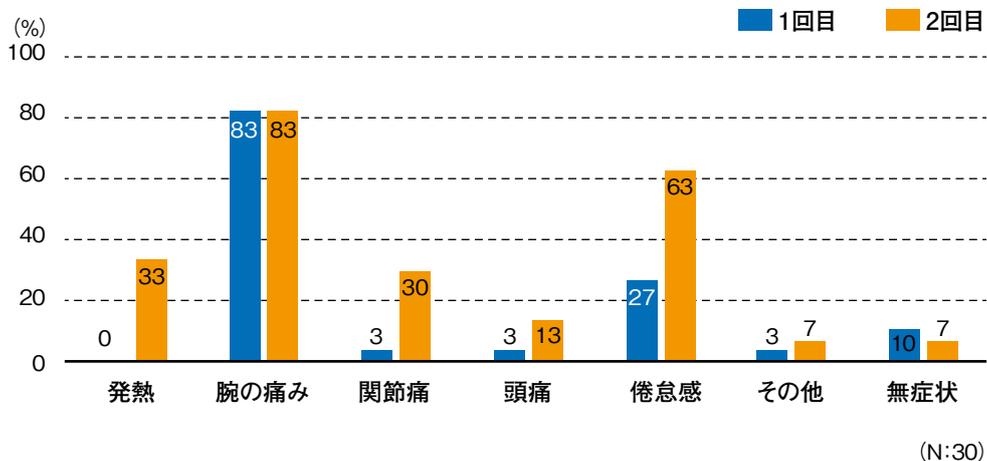
接種後、痛みや違和感を訴えられないご利用者さんもいらっしゃるので日頃と変わりはないか職員で連携して様子観察を行いました。1回目・2回目共に特に大きな体調の変化は見られませんでした。

職員については、接種後副反応についてアンケートを行いました。

新型コロナワクチン接種したからといって感染しないわけではないので、引き続き感染予防を徹底し入所者さんが安心して過ごせるよう努めて参ります。



接種後の副反応(職員)



〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

特別養護老人ホーム 高喜苑

〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8253 FAX 099-284-8252

シルバークラウド武岡台

〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6870 FAX 099-283-6871

済生会なでこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-202-0710 FAX 099-283-6876

指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4737 FAX 099-283-4733

グループホーム武岡5丁目

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目16番23号

TEL 099-282-6081 FAX 099-283-3533

グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-7231 FAX 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター

〔指定通所介護・予防型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 FAX 099-283-6872

済生会ヘルスサポートセンター武岡

〔ミニデイ型通所介護・運動型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 FAX 099-283-6872

なでしこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-281-9292 FAX 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑

〔指定訪問介護・予防型訪問介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 FAX 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ

〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 FAX 099-283-6876

訪問給食センター 高喜苑

〔鹿児島市委託事業所・配食事業〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-283-4730 FAX 099-284-8255

鹿児島県済生会

〔支部〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-210-5460 FAX 099-210-5560

編集
後記

身近で聞かれるようになった今回のテーマ「SDGs」、少し難しく感じましたが、私たちが生活する環境に目を向け将来の子供たちの為にも、ムダをなくすことや再利用をするなど身近なことからコツコツと積み重ねていきたいと思えます。コロナ禍で、ワクチン接種も進みだし終息を願うばかりです。初夏のさわやかな風で心も身体も換気しながら、夏を乗り越えていきましょう。